

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年11月10日

【四半期会計期間】 第28期第2四半期（自 平成26年7月1日 至 平成26年9月30日）

【会社名】 株式会社ファルコホールディングス  
（旧会社名 株式会社ファルコSDホールディングス）

【英訳名】 FALCO HOLDINGS Co., Ltd.  
（旧英訳名 FALCO SD HOLDINGS Co., Ltd.）  
（注）平成26年6月25日開催の第27回定時株主総会の決議により、平成26年  
10月1日から会社名を上記のとおり変更いたしました。

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 平崎 健治郎

【本店の所在の場所】 京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地

【電話番号】 075（257）8585

【事務連絡者氏名】 取締役戦略業務室長 安田 忠史

【最寄りの連絡場所】 京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地

【電話番号】 075（257）8556

【事務連絡者氏名】 取締役戦略業務室長 安田 忠史

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所  
（東京都中央区日本橋兜町2番1号）

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	第27期 第2四半期連結 累計期間	第28期 第2四半期連結 累計期間	第27期
会計期間	自平成25年4月1日 至平成25年9月30日	自平成26年4月1日 至平成26年9月30日	自平成25年4月1日 至平成26年3月31日
売上高 (百万円)	31,340	23,189	58,401
経常利益 (百万円)	1,077	896	1,118
四半期(当期)純利益 (百万円)	651	441	2,278
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	799	533	2,378
純資産額 (百万円)	14,995	15,719	15,772
総資産額 (百万円)	35,875	30,258	32,878
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	53.30	38.84	189.11
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	41.8	51.9	48.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	883	231	375
投資活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	527	872	4,358
財務活動によるキャッシュ・フロー (百万円)	1,090	1,598	4,856
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (百万円)	7,441	7,097	8,054

回次	第27期 第2四半期連結 会計期間	第28期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自平成25年7月1日 至平成25年9月30日	自平成26年7月1日 至平成26年9月30日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	17.48	16.64

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

### 2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

### 3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

#### (1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、消費税増税前の駆け込み需要の反動の影響を受けつつも、政府による金融政策や経済政策を背景に企業収益が改善し、所得環境・雇用情勢も改善の兆しが見られ、景気は緩やかな回復基調で推移しました。しかしながら、海外においては中国や新興国の経済成長が鈍化しており、国内においては消費税増税の影響や円安による資材価格の上昇等が懸念されており、依然として先行き不透明な状況で推移しております。

当社グループを取り巻く受託臨床検査市場は、診療報酬の改定の影響に加え、同業社間の競争が激化しており、厳しい市場環境が続いております。また、調剤薬局市場は、調剤報酬の改定や薬価改定の影響に加え、消費税増税の影響を受け、厳しい状況となっております。

当社グループでは、このような経営環境のもと、グループ内の事業再編を進め、コスト構造の見直しを図るとともに、各事業において収益力の向上に取り組んでおります。

このような状況のもと、当第2四半期連結累計期間の売上高は23,189百万円（前年同期比26.0%減）、営業利益は830百万円（同17.9%減）、経常利益は896百万円（同16.8%減）、四半期純利益は441百万円（同32.2%減）となりました。

売上高の減少は、主として、平成25年12月16日付でドラッグストア及び調剤薬局の運営を行ってまいりました(株)示野薬局の全株式を譲渡し、前連結会計年度においてドラッグ事業から撤退した影響によるものであります。また、営業利益、経常利益及び四半期純利益の減少は、主として臨床検査事業の営業利益の減少によるものであります。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### 臨床検査事業

臨床検査事業につきましては、営業拠点や検査施設の再配置等により事業構造の改革や業務改善を進めております。また、検査項目の拡販及び新規顧客の獲得に努めるとともに、遺伝子検査受託体制の充実・強化を図り、収益力の向上に取り組んでおります。

医療情報システムの売上の減少や臨床検査の受託検体数の減少により、臨床検査事業の売上高は14,481百万円（前年同期比1.9%減）となりました。また、試薬費や人件費等の増加により、営業利益は266百万円（同38.1%減）となりました。

#### 調剤薬局事業

調剤薬局事業につきましては、医療機関等との連携を図りながら地域特性に合わせた調剤薬局の展開を進めております。また、計画的な新規出店及び店舗運営の効率化を推進するとともに、OTC医薬品等の品揃えを充実させることにより、セルフメディケーションを意図した来局者の増加を図り、収益力の向上に取り組んでおります。

当第2四半期連結累計期間において、4店舗を開局、2店舗を閉局したことにより、当四半期連結会計期間末における当社グループが運営する調剤薬局等店舗総数は109店舗（フランチャイズ店5店舗含む）となりました。

前連結会計年度における(株)示野薬局の株式譲渡に伴い調剤薬局店舗数が14店舗減少したことにより、調剤薬局事業の売上高は8,710百万円（前年同期比5.9%減）となりました。また、薬価及び調剤報酬の改定や消費税増税の影響があったものの、新店の処方箋枚数の増加やコスト削減等により、営業利益は633百万円（同11.7%増）となりました。

#### (2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の財政状態につきましては、総資産は、主に現金及び預金や投資有価証券が減少したことにより、前連結会計年度末に比べ2,619百万円減少し、30,258百万円となりました。

負債は、主に買掛金、未払法人税等及び借入金の減少により、前連結会計年度末に比べ2,566百万円減少し、14,539百万円となりました。

また、純資産は、四半期純利益の計上により利益剰余金が増加したものの、一方で自己株式が増加したことにより、前連結会計年度末に比べ2百万円減少し、15,719百万円となりました。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ956百万円減少し、7,097百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果使用した資金は231百万円（前年同四半期は883百万円の獲得）となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益817百万円、減価償却費484百万円、仕入債務の減少額650百万円及び法人税等の支払額1,340百万円によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果獲得した資金は872百万円（前年同四半期は527百万円の使用）となりました。これは主に、有形固定資産の取得による支出277百万円、投資有価証券の売却による収入1,068百万円及び保険積立金の解約による収入145百万円によるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は1,598百万円（前年同四半期は1,090百万円）であります。これは主に、長期借入金の返済による支出747百万円及び自己株式の取得による支出383百万円によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間より、臨床検査事業において医療情報システムの新製品の開発を目的とした研究開発活動を進めております。

当第2四半期連結累計期間における研究開発費の総額は16百万円であります。

## 第3【提出会社の状況】

## 1【株式等の状況】

## (1)【株式の総数等】

## 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	40,000,000
計	40,000,000

## 【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年9月30日)	提出日現在発行数 (株) (平成26年11月10日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	12,280,177	12,280,177	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数 100株
計	12,280,177	12,280,177	-	-

## (2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

## (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

## (4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

## (5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成26年7月1日～ 平成26年9月30日	-	12,280,177	-	3,371	-	3,208

## (6)【大株主の状況】

平成26年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
株式会社京都銀行	京都市下京区烏丸通松原上る薬師前町700番地	531	4.33
ファルコSDホールディングス従業員持株会	京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地	489	3.99
赤澤 寛治	大阪府枚方市	364	2.97
ファルコSDホールディングス 取引先持株会	京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地	336	2.74
平崎 健治郎	大阪府枚方市	328	2.68
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	315	2.57
株式会社ピー・エム・エル	東京都渋谷区千駄ヶ谷5丁目21番3号	314	2.56
株式会社ホルスクリエーションズア カザワ	大阪府枚方市香里ヶ丘6丁目1番10号	302	2.46
大阪中小企業投資育成株式会社	大阪市北区中之島3丁目3番23号	208	1.69
金田 直樹	京都市左京区	202	1.65
計	-	3,393	27.63

(注) 1. 上記のほか、自己株式が1,070千株あります。

2. 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループから、株式会社三菱東京UFJ銀行、三菱UFJ信託銀行株式会社、三菱UFJ投信株式会社及び三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社を共同保有者とする平成26年9月16日付(報告義務発生日平成26年9月8日)の大量保有報告書の写しの送付があり、それぞれ以下のとおり株式を保有している旨の報告を受けております。株式会社三菱東京UFJ銀行の保有株式数につきましては、平成26年9月30日現在の株主名簿に基づき、上記「大株主の状況」に記載しておりますが、その他の共同保有者につきましては、当社として期末時点における実質所有株式数の確認ができませんので、上記「大株主の状況」では考慮しておりません。

氏名又は名称	住所	保有株券等の数 (千株)	株券等保有割合 (%)
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2丁目7番1号	315	2.57
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	147	1.20
三菱UFJ投信株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目4番5号	19	0.16
三菱UFJモルガン・スタンレー 証券株式会社	東京都千代田区丸の内2丁目5番2号	144	1.18
計	-	627	5.11

## (7)【議決権の状況】

## 【発行済株式】

平成26年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 1,070,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 11,173,000	111,730	-
単元未満株式	普通株式 36,677	-	-
発行済株式総数	12,280,177	-	-
総株主の議決権	-	111,730	-

(注) 上記「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が900株(議決権の数9個)含まれております。

## 【自己株式等】

平成26年9月30日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
株式会社ファルコSDホールディングス	京都市中京区河原町通二条上る清水町346番地	1,070,500	-	1,070,500	8.72
計	-	1,070,500	-	1,070,500	8.72

## 2【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成26年7月1日から平成26年9月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成26年4月1日から平成26年9月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、京都監査法人による四半期レビューを受けております。



## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	8,074	7,120
受取手形及び売掛金	6,205	6,040
商品及び製品	1,322	1,111
仕掛品	64	89
原材料及び貯蔵品	413	390
その他	1,453	1,453
貸倒引当金	54	46
流動資産合計	17,479	16,159
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物	9,018	8,944
減価償却累計額	5,229	5,302
建物及び構築物(純額)	3,789	3,641
土地	4,572	4,361
リース資産	816	821
減価償却累計額	508	556
リース資産(純額)	308	264
建設仮勘定	27	18
その他	7,667	7,678
減価償却累計額	6,747	6,769
その他(純額)	920	909
有形固定資産合計	9,618	9,195
<b>無形固定資産</b>		
のれん	117	91
その他	625	549
無形固定資産合計	743	640
<b>投資その他の資産</b>		
その他	5,096	4,319
貸倒引当金	59	56
投資その他の資産合計	5,036	4,262
<b>固定資産合計</b>	15,398	14,099
<b>資産合計</b>	32,878	30,258

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成26年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成26年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,572	4,998
短期借入金	1,070	870
未払法人税等	1,430	338
賞与引当金	657	671
その他の引当金	3	-
その他	3,901	3,945
流動負債合計	12,635	10,822
固定負債		
長期借入金	1,165	392
役員退職慰労引当金	833	878
退職給付に係る負債	1,789	1,783
資産除去債務	138	142
その他	543	520
固定負債合計	4,470	3,716
負債合計	17,105	14,539
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,371	3,371
資本剰余金	3,439	3,439
利益剰余金	9,482	9,721
自己株式	908	1,292
株主資本合計	15,385	15,241
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	386	478
その他の包括利益累計額合計	386	478
純資産合計	15,772	15,719
負債純資産合計	32,878	30,258

## ( 2 ) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

( 単位：百万円 )

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
売上高	31,340	23,189
売上原価	22,861	16,365
売上総利益	8,479	6,824
販売費及び一般管理費	17,468	15,994
営業利益	1,011	830
営業外収益		
受取配当金	30	45
貸倒引当金戻入額	26	10
その他	86	37
営業外収益合計	143	93
営業外費用		
支払利息	53	18
支払手数料	6	4
その他	17	4
営業外費用合計	77	27
経常利益	1,077	896
特別利益		
投資有価証券売却益	46	162
その他	0	29
特別利益合計	46	192
特別損失		
固定資産除却損	7	8
減損損失	-	245
事務所移転費用	-	14
その他	0	2
特別損失合計	7	271
税金等調整前四半期純利益	1,116	817
法人税、住民税及び事業税	416	333
法人税等調整額	48	42
法人税等合計	465	375
少数株主損益調整前四半期純利益	651	441
四半期純利益	651	441

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	651	441
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	147	91
その他の包括利益合計	147	91
四半期包括利益	799	533
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	799	533
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

## (3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	1,116	817
減価償却費	721	484
減損損失	-	245
のれん償却額	79	26
貸倒引当金の増減額(は減少)	35	11
退職給付引当金の増減額(は減少)	15	-
退職給付に係る負債の増減額(は減少)	-	6
賞与引当金の増減額(は減少)	10	10
受取利息及び受取配当金	34	46
支払利息	53	18
売上債権の増減額(は増加)	83	123
たな卸資産の増減額(は増加)	337	208
仕入債務の増減額(は減少)	1,049	650
その他	326	139
小計	940	1,081
利息及び配当金の受取額	31	45
利息の支払額	51	18
法人税等の支払額	37	1,340
営業活動によるキャッシュ・フロー	883	231
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の払戻による収入	10	-
有形固定資産の取得による支出	574	277
有形固定資産の売却による収入	1	83
無形固定資産の取得による支出	140	66
投資有価証券の取得による支出	103	102
投資有価証券の売却による収入	204	1,068
投資有価証券の償還による収入	-	59
保険積立金の解約による収入	54	145
その他	18	37
投資活動によるキャッシュ・フロー	527	872
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(は減少)	150	200
長期借入金の返済による支出	608	747
ファイナンス・リース債務の返済による支出	186	62
配当金の支払額	146	204
自己株式の取得による支出	0	383
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,090	1,598
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	735	956
現金及び現金同等物の期首残高	8,176	8,054
現金及び現金同等物の四半期末残高	17,441	17,097

## 【注記事項】

(会計方針の変更)

(退職給付に関する会計基準等の適用)

「退職給付に関する会計基準」(企業会計基準第26号 平成24年5月17日。以下「退職給付会計基準」という。)及び「退職給付に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第25号 平成24年5月17日。以下「退職給付適用指針」という。)を、退職給付会計基準第35項本文及び退職給付適用指針第67号本文に掲げられた定めについて第1四半期連結会計期間より適用し、退職給付債務及び勤務費用の計算方法を見直し、退職給付見込額の期間帰属方法を期間定額基準から給付算定式基準へ変更、割引率の決定方法を退職給付の支払見込期間及び支払見込期間ごとの金額を反映した単一の加重平均割引率を使用する方法へ変更しております。

退職給付会計基準等の適用については、退職給付会計基準第37項に定める経過的な取扱いに従って、当第2四半期連結累計期間の期首において、退職給付債務及び勤務費用の計算方法の変更に伴う影響額を利益剰余金に加減しております。

この結果、当第2四半期連結累計期間の期首の退職給付に係る負債が2百万円増加し、利益剰余金が1百万円減少しております。また、当第2四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ3百万円減少しております。

(四半期連結損益計算書関係)

1. 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
運送費	198百万円	182百万円
貸倒引当金繰入額	0	0
役員報酬	174	184
給料及び賞与	2,823	2,252
賞与引当金繰入額	306	272
退職給付費用	83	117
役員退職慰労引当金繰入額	21	51
福利厚生費	602	529
減価償却費	309	119
賃借料	501	298
消耗品費	559	528
のれん償却額	79	26
雑費	474	413

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は下記のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成25年4月1日 至 平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成26年4月1日 至 平成26年9月30日)
現金及び預金勘定	7,483百万円	7,120百万円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	42	22
現金及び現金同等物	7,441	7,097

## (株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

## 1. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月21日 定時株主総会	普通株式	146	12.00	平成25年3月31日	平成25年6月24日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年11月7日 取締役会	普通株式	152	12.50	平成25年9月30日	平成25年12月5日	利益剰余金

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

## 1. 配当に関する事項

## (1) 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年6月25日 定時株主総会	普通株式	201	17.50	平成26年3月31日	平成26年6月26日	利益剰余金

(2) 基準日が当第2四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第2四半期連結会計期間末後となるもの

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年11月6日 取締役会	普通株式	196	17.50	平成26年9月30日	平成26年12月5日	利益剰余金

## 2. 株主資本の金額の著しい変動

当社は、平成26年7月3日開催の取締役会決議に基づき、自己株式312,400株の取得を行いました。この結果、当第2四半期連結累計期間において自己株式が383百万円増加し、当第2四半期連結会計期間末において自己株式が1,292百万円となっております。

## (セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	臨床検査 事業	調剤薬局 事業	ドラッグ 事業	計		
売上高						
外部顧客への売上高	14,765	9,250	7,323	31,340	-	31,340
セグメント間の内部売上高 又は振替高	3	1	0	4	4	-
計	14,768	9,251	7,324	31,344	4	31,340
セグメント利益	431	567	2	1,000	10	1,011

(注)1. セグメント利益の調整額10百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用621百万円及び内部取引の消去に伴う調整額632百万円が含まれております。全社費用は、主に人事・経理部門等の管理費用及び建物の減価償却費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

## 1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	臨床検査 事業	調剤薬局 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,479	8,710	23,189	-	23,189
セグメント間の内部売上高 又は振替高	2	0	2	2	-
計	14,481	8,710	23,192	2	23,189
セグメント利益	266	633	900	69	830

(注)1. セグメント利益の調整額69百万円には、各報告セグメントに配分していない全社費用633百万円及び内部取引の消去に伴う調整額563百万円が含まれております。全社費用は、主に人事・経理部門等の管理費用及び建物の減価償却費であります。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループは、平成25年12月16日付で、「ドラッグ事業」及び「調剤薬局事業」を展開している(株)示野薬局の全株式を譲渡し、前連結会計年度において「ドラッグ事業」から撤退しております。これに伴い、第1四半期連結会計期間より、報告セグメントを従来の「臨床検査事業」、「調剤薬局事業」及び「ドラッグ事業」の3区分から、「臨床検査事業」及び「調剤薬局事業」の2区分に変更しております。

## 3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

臨床検査事業における営業所及び検査室の移転等により処分予定の不動産につきまして、減損損失を計上しております。なお、当第2四半期連結累計期間における当該減損損失の計上額は、「臨床検査事業」において5百万円、「調整額」において239百万円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。



## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額	53円30銭	38円84銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	651	441
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	651	441
普通株式の期中平均株式数(株)	12,222,254	11,370,248

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

平成26年11月6日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....196百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....17円50銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....平成26年12月5日

(注) 平成26年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行います。

## 第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年11月10日

株式会社ファルコホールディングス  
(旧社名 ファルコSDホールディングス)

取締役会 御中

京都監査法人

指 定 社 員 公認会計士 秋 山 直 樹 印  
業 務 執 行 社 員指 定 社 員 公認会計士 高 井 晶 治 印  
業 務 執 行 社 員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ファルコホールディングス(旧会社名 株式会社ファルコSDホールディングス)の平成26年4月1日から平成27年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成26年7月1日から平成26年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成26年4月1日から平成26年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

## 四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

## 監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

## 監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ファルコホールディングス及び連結子会社の平成26年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

## 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. XBR Lデータは四半期レビューの対象には含まれていません。